

平成27年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	第1回葛飾区行政評価委員会第二分科会
開催日時	平成27年7月10日（金） 午前10時から12時
開催場所	水元かわせみの里、西水元地区センター
出席者	【委員7人】 小松原会長、江川委員、大山委員、村上委員、谷本委員、長谷委員 町田委員 【区側7人】 事務局（経営改革担当課長、事務局職員3人） 公園課（公園課長、管理運営係長、担当者）

会議概要

1 開会

（事務局より資料の確認を行った）

2 現場視察（水元かわせみの里）

（公園課から施設についての説明を行った後、現場視察へ。）

【視察中、水辺のふれあいルームの担当職員より説明】

- ・施設の裏手にある野草園については、昭和30年頃の植生を目指して管理している。
- ・小合溜に生息している魚は昨年11種確認できた。
- ・施設内の展示は年4回入れ替えしている。
- ・水辺のふれあいルームでは、キッズボランティアというものを募集し、施設内で展示している生き物の世話をしてもらっている。募集は年に1回で、対象は小学校1年生から6年生。15人程度いるが、多いときには30人程度の応募がある。

3 移動（西水元地区センターへ）

4 事務事業の概要説明及びヒアリング

「水辺のふれあいルーム運営」

（公園課より「水辺のふれあいルーム運営」の概要について説明した後、質疑

応答)

A委員 : 人件費について、0.15 人分の人件費が算出されているが、受付の職員は区の職員ではないのか。

公園課 : 受付の職員は区が委託した業者の職員である。人件費として算出しているのは、委託業者との打ち合わせを適宜行う等、区の職員が関わる部分についてである。

小松原会長 : 受付職員のコストは委託費に含まれているということか。

公園課 : そのとおりである。

B委員 : 成果指標の算出根拠が過去 10 年間の実績の平均としている。過去の目標値を見ると、10 年間の実績から 5 パーセント上乘せした目標値を設定した年もあるようである。どのような考え方で目標値を算出しているのか。

公園課 : 来場者数については施設等に大規模な手を加えなければ、現在の 3 万人程度からはなかなか増えていかないものと考えている。そのような中、実績から目標値を設定しているのは、過去 10 年間のデータを把握し、来場者の予想ができるとの考えからである。しかし、現状に甘えることなく、来場者の増加に向けて努力をする姿勢として、5 パーセント上乘せした目標値を設定していたものである。

B委員 : 考え方については理解したが、5 パーセント上乘せした目標値を設定した年もあったにもかかわらず、27 年度の目標値が元に戻ってしまったことは残念である。とはいえ、高望みも良くないが、来場者を増やしていく努力は引き続き必要である。講座の受講者数が減少しているが、その原因としては講座数自体が減少しているのか、単純に受講者数が減少しているのか。

公園課 : 講座数はほとんど変動していないが、内容によって人気の有無があり、受講者のばらつきが生じていることが原因と考える。

B委員 : 委託業者の選定にあたっては、何社募集があったのか。

公園課 : 2 社である。

B委員 : 審査はどこが行っているのか。

公園課 : 政策経営部をはじめとした区の管理職を委員として、業者を選定している。

B委員 : 添付資料にイベントの一覧があるが、同じ企画が今回で何回目なのかがわからない。また、何人参加されたのかもわからない。その点についての資料があれば、人気がある講座がどれなのかが把握でき、それらの講座を 2 回実施する等の工夫ができるのではないかと。

小松原会長：表にして提示してもらえれば、内容に対して提言ができると思うので、次回ご用意いただきたい。

公園課：ご用意したい。

C委員：表には、「自然環境の情報提供ができるフィールド」と記載されているが、区ではほかにどのような事業があるか。

公園課：環境部で行っている「花いっぱいのもちづくり」事業や、柴又河川敷における魚の生態系の自然観察会等がある。

C委員：そういった事業との連携を行っていく考えはあるのか。

公園課：所管課同士での連携は日ごろから取り合っている。

C委員：小合溜の浄化施設を維持することも区で行っているのか。

公園課：区で行っている。

C委員：東京都の土地に区の施設があるという形か。

公園課：土地は国の所有であるため、国の土地に区の施設があるという状態である。

C委員：水辺のネットワーク事業というのはどういった事務事業か。

事務局：都市整備部内の街づくり調整課で行っている事務事業で、中川の散策路整備等を行うものである。

C委員：成果指標について、自然環境の情報提供を行うにあたっての母数をいくつにするのかということが重要である。どれだけの区民に情報提供を行っていきたいのか、それをもとに目標を設定するのであれば理解できるが、単に実績に対して5パーセント上乗せした目標を設定するというやり方はなじまないのではないか。

B委員：そういった考え方も理解できるが、あくまで水辺のふれあいルームの運営について考えるものであるため、自然環境全体についての目標ということになると話が変わってしまうのではないか。上乗せする数値が5パーセントであることが良いのかどうかは別として、努力して来場者数を増やしていこうとする方向性は間違いではないと考える。

C委員：例えば来場者を10パーセント増やすならばもっと設備投資が必要であったり、1パーセントならもっとコストが抑えられたりといったことがあると思う。そこを曖昧にしていると、改善したいという考えに対しても、提言はできない。

D委員：根本的に、所管課の考えとしては、単に沢山の人に来てもらいたいという意味の改善なのか。それとも、自然環境を守りながら運営していく中での改善なのか。単純に来場者を増やしたいということであれば、近くに駐車場を作ったり、バスの運行本数を増やしたり

してしまえば、5パーセント上乗せした目標など簡単に達成できると思う。しかし、本事務事業の趣旨としてはそういうことではないと私は理解している。

公園課 : 委員の皆様のおっしゃることはもっともだと思う。成果指標は、区民にわかりやすい評価という点を考慮し、設定したものであるが、今回いただいたご意見をもとに検討していくことも必要と考える。バスの運行本数については、京成バスの協力の下、時期によっては増やしてもらっている。本施設は、国の土地に区の施設があり河川管理事務を行っているため、本施設以外の部分については東京都の管轄になる。駐車場の増設といった話になれば、東京都の駐車場計画や公園計画で定められているものであるため、答申として駐車場の増設を求めるご意見等があれば、必要に応じて東京都に具申するなどしていきたいと考える。

E委員 : 本施設は、実際見てみると大変素晴らしい施設だとわかったが、初めて来た人にはわかりにくいと思った。小学校にPRしながら、自然について学んでもらう場所にしてもらえれば良いと思う。家族で自然に触れ合える施設であることが一番良いと思うので、水元公園内ではバーベキューもでき、自然についても学べるといったPRをすることが効果的であり、本施設だけをPRするよりも効果があると思う。

D委員 : 水元公園の駐車場から本施設への案内やPRはしているか。PRなしにここまで来る方はいないと思う。

公園課 : ところどころに公園の案内板を設置していることと、イベントの際に周知を行っている程度である。看板一つ設置するにしても土地の所有者ではないため、簡単にはいかない部分がある。そのため、行政評価委員会において議論をいただいた上で答申をいただけると、区としても心強い。

E委員 : 本施設は、場所が良いと思うが管轄している範囲が狭い。野鳥が飛来することも期待できない程度の広さである。

公園課 : 水元公園内は東京都で様々な目的別にゾーン分けをされており、それぞれに環境を整えている。その中で、本施設周辺以外にも野鳥は飛来している。

A委員 : 私は、少なくとも年に5~6回、多いときには10回は本施設に訪れている。本事務事業の趣旨としては、水辺のふれあいルーム周辺の自然を守ることをしているのではなく、小合溜の方まで行って野鳥観察会を行ったり、公園内の色々な場所に行ったりして自

然観察を行っている。自然を守りながら事業を進めていくのか、沢山の来場者に来てもらうのかということについては、来場者が多くなることで自然環境を守り続けることができなくなる可能性が高いため、講座を拡充させて本施設を知って興味を持ってもらうことに注力した方が良いのではないかと。講座は、毎年同じ内容をやっていることが多い。利用者としては、同じ講座でも内容が変わっていることを期待して2回目までは受講するが、前年と同じ内容ということがわかると3回目はもう行かないとなってしまうため、定期的に内容の見直しを行う必要があると考える。講座実施にあたってはアンケート調査も行われているため、その内容を反映させて見直しをしてもらいたい。

C委員 : 水辺のふれあいルーム内での情報を発信したいのか、区として周知したい自然環境についての情報を発信するものなのか。

D委員 : 本施設を訪れる人は、自然環境が好きな人な、いわゆるマニアのような人だと思う。今回の改善にある「来場者を増やす」ということは、自然環境が好きでない人も集めたいということだと思うが、私は、そうではなく、自然環境を守ることが優先と考える。施設としては、自然環境が好きな人でも、1～2回は訪れるであろうが、3回は訪れないであろう。そこに人を呼び込むということはそもそも難しい。

A委員 : リピーターの施設利用者は多い。

B委員 : 来場者を増やさなくてもいいということも発想としては有りだと思う。ただ、本施設を知らない区民が多いことが良いのかどうか。周知し、自然環境を理解してもらうことが、行政として必要なのではないかと。リピーターがいることは望ましいが、少なくとも1度は見てもらいたいという考え方で進めるべきではないかと。来場者を増やさなくてもいいということであれば、廃止してもいいということになる。来場者を増やすための工夫は様々考えられると思うが、先ほどからも駐車場の話やバス運行の話が出ていたり、その他にも駐車場からの無料自転車貸し出しなども考えられると思う。国や東京都との関係から複雑な事情がある本事務事業においては、我々行政評価委員会が、そういった来場者増加に向けた提言を行うことで、意見具申しやすくなるのだと思う。

講座については、初級編・中級編・上級編などの工夫をすることで、リピーターの確保に向けた取組みになると思う。

D委員 : 無料自転車貸し出しは既に行っているのではないかと。

- 公園課 : 無料ではなく、有料ではあるが、貸し出しは行っている。
- F 委員 : 都立公園であるにもかかわらず本施設を区で運営している意味は何なのか。
コストについて、1,400万円という費用は普通の公園よりもコストがかかっているのか。また、区内の大きな公園、小さな公園でどれくらいの利用者があるのか。
都内の都立公園で良い事例があれば、教えてもらいたい。
小学校や中学校が団体として訪れている数はどれくらい行くのか。理科の授業だけでは学べないことも多いと思うので、学校と連携して見学に来てもらうことも考えた方が良いのではないか。
水元公園に訪れる人数は、全体でどれくらいか。
意見としては、認知度が足りないと思う。認知度を量るアンケートをとっていれば、結果を知りたい。
- 公園課 : 区で運営している意味としては、本施設の一番の目的は小合溜の浄化であり、施設内の水元小合溜水質浄化センターで外溜と内溜の水を循環させて浄化するというものである。小合溜の浄化を行うことも重要であるが、それと共に、区民に自然環境の大切さを知ってもらい、水質の維持等にも役立てていきたいということで実施しているのが本事務事業であるため、区で実施している意味はあると考えている。
東京都の他の事例、団体数等については調べてお示ししたい。
水元公園の利用人数は四方八方からいつでも入れるため正確な数字ではないが、東京都で算出をしているはずなので、調べたい。
- A 委員 : 以前、東京都の自然観察会に参加した際に、小学校6年生になって初めてバッタを見たという児童がいたと聞いた。それは不自然なことだと思う。そういった子どもを作らないためにも、水元公園は必要な施設である。小中学校に働きかけて、本施設を見学する会を設けてはどうかと思う。元来は、水の浄化が本施設の目的であると思うが、それを広く知らせていくことも重要であると思う。
- C 委員 : そのような目標を定めるのであれば、改善計画をしっかりと考えるべきである。
- B 委員 : そういった点も含めて我々が提言していくべきではないか。産業フェアには小学生が来場しているが、同様に本施設を見学してもらうことはできるのではないか。
- 公園課 : 小学校からの課外授業での見学は何校か訪れている。
- B 委員 : 施設外でカワセミを撮影している人は来場者として数えているか。

- 公園課 : 数えていない。施設に入った方のみを集計している。
- D委員 : 区内の小中学校へは周知しているのか。
- 公園課 : 周知はしている。小学校からの見学のほか、先ほど施設内でご覧いただいた通り、中学生の職場体験も受け入れている。
- E委員 : 水元周辺の学校は課外授業で訪れている。近隣の学校は訪れていても、アクセスが悪い学校は授業で訪れることも難しいかもしれない。来場者数の目標については、数字はあくまでデータであって、議論すべきは中身のことでないか。
- C委員 : 施設ができて20年経過しているのだから、これまでの運営だけではなく、自然環境の重要性を訴えかける取組みをもっと行うべきだと思う。
- D委員 : 我々が議論しているようなことは、大なり小なりはあるかとは思いますが、すでに取り組んでいることと思う。色々なイベントも水元公園内の広場で行ってはいるが、場所が遠く、本施設の来場には繋がっていない。
- B委員 : アンケートを取っているということだが、内容は分析できているのか。アンケートの重要性を理解し分析することで、改善策が検討できるはずである。
- 小松原会長 : 区HPで水元公園活性化事業の一覧表を見つけた。水元公園内で行われている事業が確認できるため、次回の事業評価の際に用意してもらいたい。

5 その他

事務局より事務連絡

6 閉会